



調印後握手を交わす真屋町長と川南支部長

**災害発生時**の資機材や生活物資などの輸送体制を確保しようと洞爺湖町と

室蘭地区トラック協会伊達支部（川南龍彦支部長）が協定書を結び、その調印式が7月18日洞爺湖町役場で行われました。

協定書では、町の要請があった場合、他に優先して輸送業務に協力することが謳われ、これにより迅速で的確な救援・救助のための輸送が可能となりました。

調印式では、真屋町長が「災害の多い地域と呼ばれている中で、本当に心強く思っています」と協定の意義を話し、川南支部長は「災害時に地域住民の安全に寄与していきたい」と社会的使命について述べました。

## 災害時の輸送体制を確保 町が室蘭地区トラック協会と協定

## 縄文人の暮らしを体験 第6回縄文まつり

第6回縄文まつり（同実行委員会主催）が、7月21日、入江貝塚公園で開催され、火おこし、飾り炭づくりなどの縄文体験や縄文デザインコンテスト、宝探しなどの多様なアトラクションで楽しい1日を過ごしました。

グループ弥生時代による太鼓と笛の演奏に続き、たいまつによる点火パフォーマンスでオープニング。

火おこしコーナーでは、子どもや大人たちが、なかなかおきない火に悪戦苦闘しながら、果敢に挑戦していました。



神馬会長の挨拶の後雄たけびを上げる参加者ら

昼食時には、恒例の縄文鍋が振舞われ、好評を博していました。

## 「交差汚染」が予防のカギ 食中毒予防講演会

**食**中毒が多く発生する時期を迎え、健康福祉センターさわやかで、7月22日「食中毒を予防するために」と題する講演会が開かれました。

福祉施設やホテル、飲食店の関係者64人が参加し、具体的に食中毒予防策について学びました。

講師は、室蘭保健所管理栄養士の熊野香奈さん。

講演では、食中毒の多くが「施設・設備、器具や従事者などを介した『交差汚染』が主要な原因である」ことを明らかにし、今までの指導体験から、施設でよく見られる光



熱心に講演を聞く参加者

景を例にとり、その改善策を提起しました。



開拓碑の前で記念写真に臨むとうや小の児童と三豊市の児童ら

**相** 交流を行っている友好都市三豊市の小学生が、7月25日から

28日まで3泊4日の日程で来町しました。

訪れたのは、「ふるさと・ふれあい・フレンドリーツアー」の児童25人。

とうや小学校の生徒の交流をはじめ、開拓記念碑の「拓土創始之碑」や洞爺湖ビジターセンター、洞爺湖芸術館などを見学。そばづくりやじゃがいも掘りなども体験し、洞爺湖町での短い生活を満喫しました。

26日には、洞爺夏まつりに参加し、雨の中練り歩く太鼓台などを見学。改めて自分たちの故郷との関係の深さを感じていました。

## 三豊市の小学生来町 地元小学生と交流深める

